

わたしたちの暮らしと政治

高千穂町 押方 歌多

私は政治や選挙に興味はあるが、関心がありませんでした。

学生時代、政治に触れる機会はほとんどなく、中学時代に社会科で学んだ内容は全くと言っていいほど覚えていません。私自身、政治とは無関係で日本を動かしているのは政治家だと思っていました。

私が政治に対する意識が変わったのは、昨年行われた衆議院議員総選挙です。関心がないから行かないという選択肢はなく、社会の一員として行くべきだと思い、投票に行きました。投票するうえで、誰が立候補しているのか、どの政党がどのような政策を掲げているのか、ネットや新聞を見ました、そこで目にしたのは、私たちの生活に関わるものばかりでそれぞれの政党の主張は様々でした。日々の生活をあたり前のように過ごしてきましたが、教育が受けられること、安心して医療機関にかかれること、そしてなにより、私たちが健康で平和な暮らしを送ることができているのは、選挙を通して選びぬかれた代表者が国民の声を政治に届けているからだに気づかされました。

実際に政治に参加してみて、疑問に思ったことがあります。

「今の日本の政治に、若者の声は届いているのでしょうか。」

日本の被選挙権は、衆議院議員で25歳、参議院議員で30歳ですが、世界に目を向けてみると18歳から立候補できる国もあります。私は、10代と20代では意見も考え方も異なると思います。被選挙権年齢が少しでも引き下げられれば、10代の声ももっと国に届けることができ、若者が政治に対して、他人事ではなく、自分事として考えるきっかけにもなると思いました。

若年層の投票率が低いことが問題になっていますが、「分からないから」という理由の人も少なくはないと思います。私たちが暮らしていくうえで、『政治』というものが身近に感じにくく、社会科で学ぶ公民の

授業でも、具体的な政党名やその背景、政策は教えてもらえませんでした。学生時代に十分に学習できなかったことを、有権者になって唐突に「投票してください」と言われることに矛盾を感じます。そのため、若者にとって選挙に行くことはハードルが高く、選挙権年齢を引き下げても投票率の向上には繋がらないのではないのでしょうか。小さい頃から主権者教育に積極的に取り組み、『政治』や『選挙』という言葉がもっと身近に感じることであれば、若者の政治に対する意識も少しは変わっていくと思います。

最後に、私と同じ年代の有権者、これから有権者となる若者に伝えたいことがあります。政治と私たちの暮らしは「環境」「住宅」「教育」など様々な面で密接につながっています。そして、国民ひとりひとりが抱えている不満や課題を解決するには、投票に行き、国民の声を政治に届けてくれる国民の代表者を選ぶほかありません。これからの日本を創るのは、政治家ではなく全ての国民です。ひとりひとりの選択が違えば、世の中の情勢も大きく変わってしまう、『政治』はそんな重要な意思決定の場の一つです。その結果には、選挙に行って投票した人、そもそも行かなかった人それぞれに責任があると思います。

若者にとって、誰に、どの政党に投票するのか明確な理由で投票することは難しいかもしれませんが、私は自分の意見に一番近い公約や政策をみつけて投票することで、自分なりの意思を今後も示していこうと思います。私が選挙に行く理由は、自分のため、家族のため、これから生きる者のためにあります。自ら行動しないと世界は何も変わりません。

若者のみなさん、まずは投票に行きましょう。